

第2学年



学びの 카테고리 「野菜」

第1学年では、「遊び」を通して、自分が興味・関心をもった対象に楽しみながら関わり、自分の世界を広げてきた。第2学年では、「野菜」をカテゴリーとした。野菜という教材が、子供にとって身近であり、収穫や食べたときの喜びを味わえたり分かち合えたりできる点が、第2学年の子供に適していると考えたからである。一人一人が願いをもって自分の野菜を美味しく、大きく育てるために、仲間と関わりながら探究していく。

北川 基洋
伊藤 暢宏
佐藤 睦

第2学年2組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：野菜 (全140時間)

第2学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		野菜を栽培する過程で出会った問題や課題に対して、自分で調べたり、様々な見方や考え方を働かせて行動したりするなど、最適解を求めて歩むことができるようにする。											
	(2) 関係構築力に関わって		仲間と野菜について考え、一緒に栽培をする中で、自分の考えを相手に伝えたり、仲間の思いを聞いて受け入れたりすることができるようにする。											
	(3) 貢献する人間性に関わって		野菜について考えたり、栽培したりする中で、他者の喜びを作り出すことが、自己の喜びや充実感につながることを実感し、そのために行動しようとする態度を養う。											
カテゴリー設定の理由	第1学年では、「遊び」を通して、自分が興味・関心をもった対象に楽しみながら関わり、自分の世界を広げてきた。第2学年では、「野菜」をカテゴリーとした。野菜という教材が、子供にとって身近であり、収穫や食べたときの喜びを味わえたり分かち合えたりできる点が、第2学年の子供に適していると考えたからである。一人一人が願いをもって自分の野菜をおいしく、大きく育てるために、仲間と関わりながら探究していく。													
学びの基盤となる道徳的諸価値	○自然愛護 ・希望と勇気、努力と強い意志 ・親切、思いやり ・友情、信頼 ・勤労、公共の精神													
学びを構成する要素	人 学校 植物 野菜 季節 畑 土 水 太陽 葉 虫 鳥 家族 給食 仲間 喜び 達成感 地域 地域の人々 お店の人 他学年 かぞく 喜び 自分 自己の成長 願い 感謝													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
単元名(時数)	「わくわく夏やさい大きくせん」(49時間)					「もりもり秋やさい大きくせん」(57時間)					「にこにこ大きくせん」(34時間)			
主な学習活動	○自分の育てたい野菜を決める。 ○野菜の苗をもらいに行く。 ○夏野菜の栽培をする。(4月～7月) ○夏野菜の栽培に詳しい人に聞く・調べる。 ○野菜を収穫する。 ○家で食べたことを交流する。					る こ 取 れ 獲 か し ら た 育 野 て 菜 た を 食 野 べ 菜 た に と つき い の 様 情 子 報 を 取 ま 集 と し め た た り り す	○秋野菜の栽培をする。(9月～12月) ○秋野菜の栽培に詳しい人に聞く・調べる。 ○学校給食について知る。 ○みんなに食べてもらうためにはどんな野菜をつくらばよいか調査する。 ○虫除けや鳥除けの道具について調べ身近な物を用いて製作する。 ○給食に出して学校の仲間や先生に食べてもらう。					○野菜作りのまとめをする。 ○自分ができるようになったことを振り返る。 ○自分の成長した姿をまとめ、グループで発表する。		
想定されるエラー(■) ジレンマ(●) 【道徳的諸価値】	■野菜が育たない。 ■野菜が鳥や虫に食べられてしまう。 ■毎日のお世話を忘れてしまう。 ●活動に夢中になって時間が守ることができない。 ■道具の後片付けができない。 【節度、節制・親切、思いやり・感謝・生命の尊さ・自然愛護】						■野菜が育たない。 ■野菜が鳥や虫に食べられてしまう。 ■毎日のお世話を忘れてしまう。 ●鳥除けの道具をうまく作ることができない。 ●農家の人のように野菜が大きく育てほしいのに、上手に育てることができない。 【節度、節制・親切、思いやり・感謝・生命の尊さ・希望と勇気、努力と強い意志 自然愛護】					■自分の成長に気付くことができない。 ■自分が発表することをうまくまとめることができない。 ●自分の考えた発表方法が仲間の考えと違う。 【個性の伸長・自律・感謝】		
人材活用施設	・地域の園芸屋(川光園芸) ・仲間 ・岐阜大学 ・附属のかぞく ・学校の先生 ・児童の家族 ・調理員						・地域の園芸屋(川光園芸) ・仲間 ・農家の人 ・附属のかぞく ・調理員 ・他学年 ・岐阜大学 ・児童の家族 ・学校の先生					・仲間 ・岐阜大学 ・附属のかぞく ・学校の先生 ・他学年 ・調理員 ・地域の園芸屋(川光園芸) ・児童の家族		
教科等との関連	・国語：図書かんたんけん かんざつ名人になろう 暑がいっぱい 夏がいっぱい ・算数：せいのりしかた 2けたのたし算 2けたのひき算 長さのたんい 100より大きい数 かさのたんい 時ごとと時間 ・図工：たのしくうつして ともち見つけた ・音楽：かぼちゃ					・国語：メモをとるとき こんなもの見つけたよ そうだんにつってください 秋がいっぱい おもちゃの作り方をせつめいしよう おにごっこ ・算数：三角形と四角形 かけ算 かけ算九九づくり 長いものの長さのたんい ・図工：音づくりフレンズ わくわくおはなしゲーム パタパタストロー ・音楽：だがつきパーティー ・体育：なげっこあそび					・国語：わたしはおねえさん 冬がいっぱい 楽しかったよ、2年生 すてきなところをつたえよう ・算数：1000より大きい数 分数 はこの形 ・図工：たのしかったよ ドキドキしたよ			

単元名		本単元の目標				
		問題解決力		関係構築力	貢献する人間性	
もりもり秋やさい大きくせん (57)		野菜を栽培する過程で出会った問題や課題に対して、自分で調べたり、農家の人に聞いたりして、自分の野菜作りに必要なことを考え実行することができるようにする。		給食に出せる野菜にするための方法を、仲間と考えたり、一緒に栽培をしたりする中で、考えや思いを相手に伝えたり、聞いたりしながら活動することができるようにする。	給食に出す野菜について考えたり、栽培したりする中で、自己や他者の喜びが充実感につながることを実感し、そのために行動しようとする態度を養う。	
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・秋に種を蒔く野菜について調べる。 ・学校給食について知る。 ・育てる野菜を決める。 ・(課題の設定) ・野菜の栽培方法を調べる。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをもとに、分かったことや疑問に思ったことを栽培に詳しい人と対話をする。 ・畑づくりをする。 ・種蒔きをする。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の世話をする。 ・野菜の生長を観察する。 ・虫除けや鳥除けの道具について調べ、身近な物を用いて製作する。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の世話をする。 ・野菜の生長を観察する。 ・農家の人と、野菜を大きくおいしく育てるための方法について、対話する。 ・農家の人との対話を踏まえて、野菜を育てる。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の世話をする。 ・野菜の生長を観察する。 ・学校の仲間や先生に、自分たちの育てた野菜について知ってもらおう。 ・おいしく食べる方法を家の人と考える。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫をする。 ・秋に種を蒔いた野菜づくりについてまとめる。 ・冬休み明けの学習の見通しをもつ。(7)
加筆修正欄						
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・秋に種をまく野菜には、大根やホウレン草などがあることを理解する。 ・自分たちの育てた野菜を学校給食に出すためには条件があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜が大きく生長するためには、土壌づくりが大切であることや、間引きが必要であることに気付く。 ・間引いた後の芽も大切な命であり、間引いた後も大切に育てようとする。 ・調べたことをもとに育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをもとに育てる。 ・野菜の生長を観察することで、その変化に気付く。 ・虫や鳥除けのために、ネットをするとよいことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の生長に喜びを感じながら育てる。 ・野菜の生長を観察することで、その変化に気付く。 ・大きくおいしく育てるための方法を知り、自分の野菜作りに必要なことを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の生長に喜びを感じながら育てる。 ・給食に自分たちが育てた野菜が出ることを知ってもらおうと、伝える方法を考える。 ・自分たちの育てた野菜をどのように調理するとおいしく食べられるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫できたことに喜びを感じる。 ・自分たちの育てた野菜を学校の仲間や先生に食べてもらうことで、多くの人が笑顔になり、それが自分たちの喜びにつながることに気付く。 ・野菜づくりを通して自分の成長に気付く。
実際の姿						
エラー・ジレンマ	<ul style="list-style-type: none"> ●自分は〇〇(野菜)を育てたいという思いと、学校給食に適した野菜の方がいいという思いで葛藤する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■毎日の世話を忘れてしまう。 		<ul style="list-style-type: none"> ■自分のよさや成長に気付くことができない。 		<ul style="list-style-type: none"> ●野菜の世話を行いたいという思いと時間を守らなければならないという思いで葛藤する。 ■野菜を大きくおいしい野菜を育てる方法が分からない。
		<ul style="list-style-type: none"> ■虫や鳥に野菜が食べられてしまう。 ■自分たちで作った鳥除けの道具の効果が低い。 				

(1) 目標

給食に出すために大きくておいしい野菜を育てようと農家の人の話を聞くことを通して、これからの野菜の世話に必要なことを考え、具体的な見通しをもつことができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

大きくておいしい野菜をつくろうという希望を抱き、努力と強い意志をもって、自分の経験や農家の方の話をもとに創意工夫しながら、自分のやるべきことを明確にし、野菜作りに生かそうとする。

本時 (35/57)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童の発言)	教師の手立てと見届け
<p>1 自分たちが育てた野菜と農家の人が育てた野菜を比べる。 ○みんなが育てている野菜と農家の人が育てた野菜にはどんな違いがあるかな。 ・農家の方が育てた野菜は大きさが全然違う。 ・葉っぱが大きい。 ・葉っぱの根元が太い。 ・葉っぱが濃い緑色をしているよ。 ・葉っぱが広がっていないよ。</p>	<p>○『どんな野菜に育てたいか』という野菜作りへの願いを再構成するために、自分たちが育てた野菜と農家の人が育てた野菜とを提示する。</p>
<p>農家の人が育てた野菜のようにするにはどんなお世話が必要か考えよう。</p>	
<p>2 願いを達成するために必要なことを考える。 ○どうすると農家の人が育てた野菜みたいになるのかな。 ・もっと水やりをするといいんじゃないかな。 ・雑草が野菜の栄養を取っていくから雑草を抜くといいんじゃないかな。 ・肥料が必要だと思うよ。</p>	<p>○自分の願いを達成するために必要なことを自分の経験を基に考えられるようにするために、「夏野菜を育てるときにはどんなお世話をしたかな。」と問いかける。</p>
<p>3 農家の人に『大きく・おいしそう』な野菜を作るための秘訣を聞く。 ○自分たちの願いを達成するために何が必要か農家の人に聞いてみましょう。</p>	<p>○2の「願いを達成するために必要なこと」を考えることが不十分な児童には、自分ごととして捉えられるように全体交流で仲間の考えを聞く場を設定する。</p>
<p>私は、給食に出すために大きな野菜に育てたいと思っています。もっと水やりをがんばれば大きくなると思うのですが、どうですか。</p>	<p>○「どうして○○が必要だと思ったの？」と問うことで、自分の野菜にとってどんな世話をすればよいかというよりよい方法に気付くことができるようにする。</p>
<p>水やりも大切だけど、やりすぎると病気になることもあるよ。水やりをする以外に大きくする方法は、間引きがあるよ。野菜と野菜の間を3cmぐらい開けてあげると、土の栄養をたっぷり吸って大きく生長することができるんだよ。そして、「大きなあれ。」「おいしくなあれ。」と心をこめて世話をすると、大きくおいしい野菜に育つんだよ。</p>	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか これからの野菜の世話に必要なことを考え、具体的な見通しをもっている。(問題解決力) ・給食に出すために大きくておいしい野菜を育てようと農家の人の話を聞くことを通して、これからの野菜の世話に必要なことを考え、具体的な見通しをもっているかどうかを児童の行動や振り返りをもとに見届ける。</p>
<p>4 自己の学びを振り返る。 ○農家の人のように『大きく・おいしそう』な野菜を育てるために必要なことは何かな。</p>	
<p>僕は間引きをします。わけは、間引きをすると土の中の栄養をいっぱい吸って野菜が大きくなるのが分かったからです。</p>	
<p>○畑に出て、学んだことをもとに野菜の世話をしましょう。</p>	
<p>僕は間引きをするよ。 私は水のやり方を工夫するよ。 肥料について農家の人にもっと詳しく聞いてみたいな。</p>	<p>○「何をしているか」や「どのようにしているか」を問うことで児童自身が言語化し、大きくておいしい野菜に育てるために必要なことの具体的な見通しを自覚化できるようにする。</p>